

平成18年5月30日

アースウォッチ・ジャパン 国内プロジェクト

## 清里のヤマネ（チーム2）参加報告書



調査地 山梨県北杜市高根町清里 3545  
(財) キープ協会やまねミュージアム

調査日 平成18年5月26日～28日

参加人数 9名

5月下旬にようやく新緑の季節となった清里はミヤマツツジが丁度見頃を迎えており、ヤマネも活動を始めているのかな?もしかして自然下のヤマネに出会えるのかな?と期待に胸弾ませ、13時にやまねミュージアムに集合しました。



オリエンテーションを行った後、ヤマネ調査地に赴き巣箱利用状況調査を3班に分かれて行いました。一ヶ月前に交換した巣箱にシジュウカラが営巣をしており、その場合抱卵数の確認とテンに襲われないよう釘で巣箱の蓋を固定しました。



15時過ぎ、加藤夫妻・鈴木さんがついにヤマネを発見!しかも二匹!急ぎ湊先生に連絡をして各班集合の上、ヤマネの観察・撮影会となりました。ヤマネは昼寝中で周りがいくら騒がしくとも(歓声やカメラのシャッター音等)起きる事無くまさに睡眠鼠であり、のんびりしているところがとても愛らしく可愛いものでした。



現地でヤマネが覚醒するまでの体温変化を測定したところ15.7~20.1度でした。ヤマネが入っていた巣箱にはブドウ蔓の皮(巣材)と糞があり、これも貴重な資料とのことでした。

またヒメネズミの営巣も観察できましたが、あまりにも素早く逃げ出し、ヤマネとの行動の対比が出来ました。



夕方ヤマネミュージアムに戻り、捕獲したヤマネ 2 個体の体重測定・雌雄の確認・耳介マーキングの有無の確認等を行いました。その結果 2 匹ともオスで 12 g 程しかなく、昨年生まれた若い個体との事でした。未確認個体との事で発見者の各氏に命名が委ねられ、サムライとクーマーの名前が付けられました。



初日の調査を終え夕食後に湊先生のヤマネ講義を受け、その後はヤマネ調査の原点ともいえる巣箱作り作業を行いました。巣箱一つとってみても今までの調査経験が活かされ、耐久性・巣箱の扱いやすさを追求した工夫の結晶だそうです。

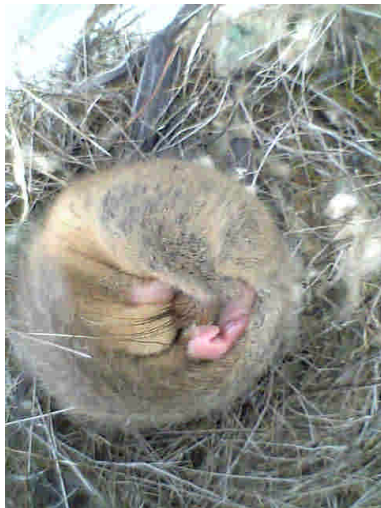


やまねミュージアムに金槌で釘を打つ音が響き渡り、1 時間程で 27 個作成することが出来ました。その後は酒を酌み交わしながらヤマネの夜間観察を行いました。飼育小屋には 5 匹ヤマネが保護されていて、ヤマネはまさに神出鬼没でした。





2日目の作業は引き続き巣箱調査ですが、前日が調査途中でヤマネの観察会となってしまったため、本日は6班体制で調査を行うことになりました。



各班に別れ調査を開始して1時間も経たない頃、ヤマネが見つかったので全員集合との連絡が入りました。発見者は昨日と同じく加藤夫妻、羨ましきから思わずまた〜と口にしてしまいました。宝くじではないですが、当たる人には当たるものです。

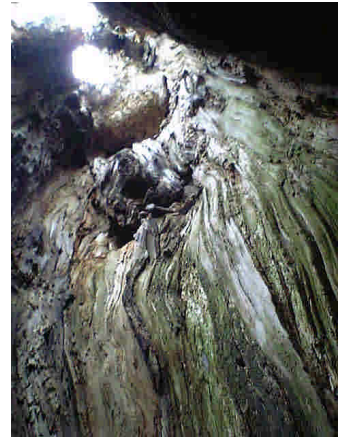


2日目も思いがけなくヤマネの観察会になりましたが、今回見つかったヤマネは完全に球形になって眠っており、なかなか起きようとしませんでした。昼食をとりながらも5分おきにヤマネの体温を測定しましたが、12~14度の間を推移するだけで一向に体温が上昇しません。

観察が長期戦になりそうなので午後は観察班と巣箱調査班に分かれ、作業を再開しました。連日のヤマネ発見もあり、もしかしたらまたヤマネが見つかるかもと期待しながらの調査で、不思議と疲れを余り感じる事無く作業を続ける事が出来ました。



調査地にはダケカンバの大木があり、中は空洞になっていました。このような樹洞にフクロウが営巣するそうですが、発信器を付けた調査中のヤマネも餌食になったそうです。



巣箱調査を全部終えヤマネ観察地点に戻ってみると、まだヤマネは寝ていました。



いい加減いつ起きるのだろうと思いましたがもう夕方になったため、後は湊先生と実習生の鈴木さんが残り観察を継続することになりました。少し後ろ髪を引かれる想いでしたが、今晚の夜間野外調査に備え、一足先に下山をして体を休めることになりました。



夕食はキープ協会の自然学校で収穫した梅をふんだんに使用した梅尽くしでとても美味しく、更に疲れた体にクエン酸が効きりフレッシュできました。ちなみにキープ協会の食事は地場の食材を使用したオーガニック料理だそうです。



夜間野外調査は初日に発見した 2 匹のヤマネを再び野に放ち、どのような行動をするかを観察するものです。

その前にヤマネの個体識別するためのマーキングをしました。ヤマネの耳介に切れ込みを入れ、切れ込みの場所と数で個体識別するそうです。切り取った切片は培養液に漬け込み、後でDNA解析をするそうです。そして暗くてもヤマネの居場所が判るようにミニ蛍光灯を背中に付け（約 24 時間で自然脱落）調査準備が整いました。



調査方法の確認を行った後、いよいよ夜間の調査地に向かいました。ヤマネの行動の妨げにならないようにライトには赤いセロハンを着け、漆黒の森へと分け入りますが、昼間でも歩くのに困難な倒木だらけの調査地で、視界の利かない夜間行動が出来るのか少し不安でした。しかしヤマネが動き出すのを待つ間、静寂の闇に身を置くと次第に夜目に慣れ、転ぶ事無く歩くことが出来ました。

野に放ったヤマネの動きはまさに水を得た魚？状態でした。20mはあろうかと思われるカラマツの幹を数秒で駆け上がり枝伝いに木々を渡り、またするすると降りてきてはツツジの枝先を揺らしながら飛び回っていました。ヤマネに付けた蛍光灯がまるで蛍のように点滅し本来のヤマネの姿を見ることが出来ました。湊先生がヤマネのことを森のスケータと称されていましたがまさにその通です。

2 時間程で夜間観察は終わりましたが湊先生は夜通しの追跡で、またヤマネスタッフは起きないヤマネの泊り込み観察を行っているとの事で、そのバイタリティーには驚かされました。



最終日、朝食時に湊先生から昨晚の結果を教えてくださいました。サムライとクーマーは深夜 2 時過ぎ湊先生の追跡を振り切り、姿を隠したそうです。



最終日の作業は初日に作成した巣箱の取り付け作業です。巣箱底面に雨水抜き穴を開け、2 班に別れ巣箱リニューアルを行いました。

その後は、今日の 9 時半にやっと起きたヤマネの観察です。このヤマネはメスで、また未確認個体だったので、発見者の加藤夫妻から「けみみん」と名付けられました。



しかし「けみみん」の寝ていた鳥の巣材の中からシジュウカラの亡骸と卵が出てきたのです。そう「けみみん」は抱卵しているシジュウカラを襲い、満腹でその場に寝ていたのです。可愛いだけじゃないヤマネの別な一面を見た思いでした。喰い喰われの食物連鎖の中で懸命に生きるヤマネの生態に触れ感懐深いものがありました。

最後は 100 万円のヤマネブリッジを見学して、チーム 2 の活動は無事終了しました。

